



*日程・内容は変更される場合があります。最新の情報はお問い合わせください。

Gallery Information

※掲載はファミス会員であることが条件で、掲載料は無料です。また、各団体から提出された文章を原則そのまま掲載しています。

第51回 埼玉二紀展

2025年7月15日(火)~7月20日(日)
一般展示室 1~4

二紀会埼玉県支部所属作家展。昨年10月の第77回二紀展の受賞作家の特別展示のほか、大作を中心に約100点の作品を展示。



昨年の会場風景

恒星 個展 第74回ありあるクリエイションズ 藝術企画

2025年7月22日(火)~7月27日(日)
一般展示室 4

2018年師走から「万画越境」と題して、恒星の絵画1万点プロジェクトは現在8,500点を超えました。人や生き物がこの世界をどう知覚しているのか、同じ・似ている・違うという視点から探求している。



水彩、アクリル、水墨、銅版画を展示予定

G.S.KABIR展

2025年8月19日(火)~8月24日(日)
一般展示室 4

バングラデシュの画家G.S.カビール(1960~2023)は、東京芸術大学大学院等で学び、多くの作品を制作しました。自らの内面や社会的なテーマを、抽象的な形で表現した絵画「Voice of Future」シリーズを中心に展示予定。



G.S.KABIR(G.S.カビール)「Voice of Future」

第61回 全展

2025年8月26日(火)~8月31日(日)
一般展示室 2,3

第60回全展を東京都美術館にて開催。60周年のお祭りという思いで、現在の全展にできる最善を尽くしました。入場者数も2417名と近年最高であり、良い展示ができたように思います。今回は発祥の地、埼玉で開催。



第60回全展記念写真

第9回公募ZEN展

2025年9月2日(火)~9月7日(日)
一般展示室 1

公募ZEN展は広く公平に開催することを信条としております。一度は自分の作品を美術館に展示して、多くの人々に鑑賞してもらいたいという意欲のある方ならどなたでも歓迎します。多くのご応募をお待ちしております。

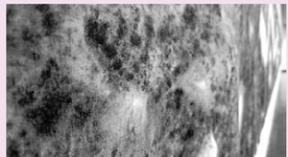


前回の会場風景

ヨシズミトシオ個展 第75回ありあるクリエイションズ 藝術企画

2025年10月7日(火)~10月19日(日)
一般展示室 4

新・近作の油彩画、水墨画、銅版画等の表現の可能性の展示。海外で開催されました国際アートトリエンナーレの受賞作品も併せて発表いたします。御高覧戴きましたら幸甚です。



前回の会場風景

もりまなぶ 生誕100年記念作品展

2025年10月14日(火)~10月19日(日)
一般展示室 3

行田出身の画家もりまなぶ(1925-1977)の生誕100年を記念する作品展です。第1回東京国際版画ビエンナーレ展(1957)で文部大臣賞を受賞した「日本の抒情」(埼玉近美に寄贈済)等60点余を展示予定。



もりまなぶ作 日本画「黒牡丹」

カメは5ひき、いた。

2025年10月28日(火)~11月2日(日)
一般展示室 4

亀は何匹いたか其々が思い巡らすように、風景を見て感じた気持ちを伝えたくなりました。陶立体・ドローイング・写真等によるグループ展示。



野口真理「すみずみ」

ここが見どころ!

表紙解説:立石大河亞(タイガー立石)の人と作品 Spot Light

立石大河亞(タイガー立石)

1941(昭和16/福岡県田川市)
-1998(平成10/千葉県市原市)
本名、立石紘一。1963年の第15回読売アンデパンダン展で注目され、反芸術的な活動や、大衆的な題材をパロディにした絵画制作を行う。その後、漫画を手掛けるが、69年にイタリアへ渡り、絵画制作だけでなく、イタリアのデザイナーや建築家と協働しイラストレーションの仕事にも携わった。82年に帰国。美術、イラストレーション、漫画、絵本など、様々な分野を横断しながら、ユニークな活動を展開した。

《Coral Moon》

1978(昭和53)年
シルクスクリーン、紙/46.1×34.3cm/埼玉県立近代美術館蔵

1960年代、立石大河亞(タイガー立石)は、和製ポップ・アート、ナンセンス漫画、と転身しながら注目を集め人気を博します。ところが、その安住を拒むかのように1969年27歳の時ミラノに移住します。ミラノでは自作の漫画のコマ割りを、そのまま大型の油彩画に描くシリーズに着手。その一方、コマ割りの絵画をいっそう緻密にかつ精巧に制作し直したシルクスクリーンによる版画も手掛けました。シルクスクリーンの版は自らの手で制作し、《Coral Moon》では16もの版を用いています。視覚を通じた形・イメージ・時空間の変容こそ重要と考えていた立石は、ナンセンスで台詞のない場面のダイナミックな展開を豊穡な色彩で描いています。当時のアイデアノートを見ると、コマ割りの構成やモチーフを検討する様子に触れることができ、《Coral Moon》の画面下のインコに関わる写真の切り抜きも登場します。Moonを題材にした作品も多く、宇宙やSF的世界への関心の高さが窺えます。



賛助会員名簿/私たちは美術館を応援しています

(2025年3月25日現在)

特別賛助会員

- (株)アライ設計
- (株)ガロ
- 税理士法人さかえ会計
- (株)テレビ埼玉
- (株)細井技研
- (株)万世
- メガソーラー機構

- 浦和興産(株)
- 埼玉画廊
- (株)楳住建
- DAY HAPPY
- 松田産業(株)
- (株)武蔵野銀行

- (株)エフエムナックファイブ
- (株)埼玉りそな銀行
- (株)上州屋リビング
- 日本畜産興業(株)
- 丸沼芸術の森
- (株)明成ベペロネ

法人賛助会員

- 海游舎
- 埼玉二紀会
- 東京ワークス

- (株)ギャラリー藤井
- CAF.N協会
- 二科埼玉支部

- (株)コア
- 社会芸術
- 見沼100年構想の会

- 埼玉書道三十人展実行委員会
- (一社)新構造社 埼玉支部
- 凜の会

個人賛助会員

- 一瀬 謙輔
- 清水 武司
- 横尾 嘉子
- 岡田 謙司
- 鈴木 千賀子
- 岡部 美代子
- 高崎 考一
- 加藤 正宏
- 滝沢 布沙
- 小松 弥生
- 野口 真理
- 小森 光子
- 森澤 公太郎

fam.s (ファミス) とは

About fam.s

埼玉県立近代美術館フレンド (friends of art museum, saitama) の愛称です。fam.s会員は、会員期間内の企画展・常設展を何度でも観覧できます。会員限定のギャラリートークやイベントのお知らせ、ショップなどの優待もあります。入会は随時受け付けています。詳しくはフレンド事務局までお問い合わせください。HPはこちら ▶



ファミス通信 第53号 2025年5月発行
広報委員◆秋本圭美/安藤恭子/野口恵子/森幹枝
紙面デザイン◆木村昭司
発行者◆埼玉県立近代美術館フレンド事務局
〒330-0061 さいたま市浦和区常盤9-30-1 埼玉県立近代美術館内
tel 048(824)0111 fax 048(824)0119

※ファミス通信は年2回、5月と11月に発行しています。

ファミスのキャラクター
「ファミちゃん」



©fam.s.kei

fam.s ファムス通信 No.53

friends of art museum, saitama





月光荘ファルベ

埼玉県入間郡三芳町竹間沢 324-6 TEL.049-293-1425

東武東上線みずほ台駅西口より歩いて約20分。住宅街の一角にある「月光荘ファルベ」さんは、1917年創業の月光荘の絵の具工場をリノベーションした、カフェやアトリエのあるアートを楽しめる場所。カフェの奥まった席をすめられて腰をおろすと、目の前の長テーブル



「ローラーに通せば通すほど、粒子が細かくなっていきます」

の天板は、スタンドグラスが嵌め込まれた扉。リノベーションのアイデアに感心しながら見回すと、アップライトピアノが置かれ、壁にはワイヤーフックが下がり、演奏会や展示のスペースとしても活用されていることがうかがえました。

油絵の具の工場は、カフェの硝子戸越しから見る事ができ、年代物のどっしりとした機械が並んでいます。ちょうどお昼時。まずは看板メニューのビーフシチューを注文して、運ばれてくるのを待ちました。

この日は、月光荘油絵の具職人の沢井さんにお話を伺う機会を作っていただきました。最初に沢井さんに案内されたのは、絵の具を練るためのローラーの機械。「イエローオーカー」という色を作っていました。

材料の顔料と油を混ぜ合わせてローラーにかけると、3本のスピードの異なるローラーが回りながら均一になるように練り上げていきます。ローラーから押し上げられ溜まった絵の具をヘラですくい取り、またローラーに戻し入れる。「この作業を何度も何度も繰り返していくと、次第にツヤのある濃密な油絵の具になっていきます。」沢井さんは手を休めることなく説明をしてくださいます。こうしてフレッシュな油絵の具が完成していきます。



資材の部屋

次に案内されたのは、資材の部屋。絵の具を作るための材料や顔料の入った大きな袋、箱や缶



「銀座の月光荘が埼玉にもあるって知ってた？」
月光荘と言えば、銀座8丁目にある老舗の画材屋さん。あのホルンのマークの月光荘が埼玉に？

ラボラトリー内部



などがひしめき、顔料をすくい取るためのスコップが色鮮やかです。

練り終えた油絵の具は専用のチューブに詰められ、ラベルを貼って完成です。



ひとつひとつ丁寧にチューブに詰めています

「全ての工程が手作業です。学校からの注文では同時期にかなりのセットを作らなければならないので、繁忙期もあるんです。」と沢井さん。

アトリエや写真スタジオ、歴史を感じさせる職人さんのラボラトリーも案内していただきました。ラボラトリーの棚には、貴重な古い絵の具や顔料、オイルや乾燥剤などが並び、実務にも資料室としても使われているとのことでした。

月光荘の油絵の具を代表する色はコバルト・ブルー。純国産第一号となった油絵の具です。かつては顔料も絵の具もフランスからの輸入に頼っていました。国産絵の具を望む気運のなか、1940年秋、疎開先の自家炉でコバルトを焼いて油絵の具になる製法を発見、純国産の顔料からなる油絵の具コバルト・ブルーを完成させたのです。その後1952年には、チタン・ホワイトの製造に成功。さらに、1960年には月光荘ピンクと呼ばれるコバルト・バイオレット・ピンクを発明、1971年の世界油絵具コンクールで1位に輝きました。



色とりどりの顔料

沢井さんの熟練した油絵の具の製造作業を目の前で見せていただきながら、ものづくりの大切さや手仕事のあたたかさ、画家のみなさんを思う心を感じました。

お楽しみのビーフシチューは、大きな牛肉の塊がゴロゴロと入っていて、口に入ると瞬間にホロホロとほぐれていくという絶品。期待通りのやさしい味に大満足でした。



〈トレードマーク ホルン〉

その昔ヨーロッパでは、貴族たちが狩猟をする時「コロノ・ダ・カッチャ」と呼ばれる角笛を吹いて、暗い森の中で仲間たちと連絡を取り合っていたそうです。トレードマークのホルンは、ホルンの音のもと、たくさんの仲間が集いますようにとの願いが込められたものです。月光荘の名付け親でもある与謝野鉄幹・晶子夫妻が中心となり、当時の文化人の方々と共に考えられました。



GEKKOSO FARBE TOPICS!

〈表も裏も月光荘ファンのために カタログ〉

「月光荘しんぶん」とも呼ばれるオリジナル画材のカタログ。説明文も余白の挿話もリズムカルな口調で楽しめる。パレットナイフや筆は原寸大。新聞よりも大判。包装紙にもなる。80円。



月光荘 FARBE 公式 HP
▶ <https://gekkoso-farbe.com/>



Instagram
▶ <https://www.instagram.com/gekkosofarbe/>



〈お話し〉
関本紀美子さん

ファルベで「手帳スケッチ」講座をしています

銀座月光荘で個展や講座をさせていただいたのがご縁で、2022年から地元の月光荘ファルベで「手帳スケッチ」講座の講師をしています。講座では、鉛筆の下書きをしないで、耐水性のペンを使って直接紙にモチーフを描いています。ペンの線を大事にしなが、きれいな発色の透明水彩絵の具で仕上げっていきます。月光荘の透明水彩絵の具や、いろいろなメーカーのものを合わせて使っています。遠方からご参加の方は、手ぶらで来てファルベで画材を購入したのち、講座ですぐに試すことができるので、とても喜んでいらっしゃいました。講座の開催についてはInstagramでご案内しています。



関本紀美子さんInstagram

〈しあわせ感じる 月のレモンケーキ〉



ふと気がつくとき美味しそうな香り。レモンケーキが焼き上がったとのこと。三日月型の「月のレモンケーキ」は、銀座月光荘の「月のはなれ」でお楽しみいただけます。ファルベでは、季節ごとのスイーツを味わえます。



〈消えないものもあるんだよ 消しゴム〉



「この消しゴムはよく消えるからって、この辺りの子どもたちはよく買いに来るんですよ。」とスタッフの方にすすめられた消しゴム。銀座の月光荘ではこんなコピーが！「失恋の痛み以外は何でも消します」

※内容の一部は『人生で大切なことは月光荘おじさんから学んだ』（月光荘著/産業文化センター刊1,400円＋税）より参考にさせていただきました。

月光荘ファルベは、2025年初夏リニューアルオープンの予定です。詳細はInstagramにて。



買ったよー！

第30回ファミス見学会「ぐんま美術館巡り」に参加して

●見学会コース：埼玉県立近代美術館（集合）→群馬県立館林美術館→群馬県立近代美術館→万葉亭（昼食）→上州物産館→原美術館ARC→埼玉県立近代美術館（解散）

fam.s Tour

2024年11月9日、しばらくぶりに再開されたファミス見学会のバスツアーには30名ほどが参加。3つの美術館を巡るといふ急ぎ足でしたが、充実したアートシーンを共有できました。

さわやかな晴天のもと、最初に訪れたのは群馬県立館林美術館でした。緑の芝生が整然と広がるさきに、両手を上げたような建物が待っていました。「自然と人間の関わり」をコンセプトに収集された国内外の彫刻作品は、庭に面して大きく開かれた展示室にゆったりと置かれています。核となるフランソワ・ポンポンの白色大理石の《シロクマ》は、オルセー美術館で見たものより大分小さいのですが、愛らしい姿を見せてくれました。別館の「彫刻家のアトリエ」は、ポンポンのアトリエ写真を参考に再現され、実際に使っていた彫刻台や家具、当時の写真などが展示されていました。制作風景が彷彿とされ臨場感を味わいました。

次は、群馬県立近代美術館。磯崎新の設計です。入口近くにはブルーデルのブロンズ像《大きな馬》が立ち、磯崎新夫人で彫刻家の宮脇愛子作《うつろい》はステンレスワイヤーの繊細な曲線を矩形の池に映して、ともにインパクトがありました。コレクションは埼玉近美と同時代なので、馴染みの作家も多く親近感を覚えました。特筆すべきは日本と中国の美術を中心とした「戸方庵井上コレクション」。優品揃いで見応え充分でした。

最後にハラミュージアムARCへ。2021年に品川の原美術館を統合し、リニューアルした現代美術館です。背後に榛名山、前方に赤城山を望む絶好のロケーション。その背景のなか黒色を基調としたシックな建物が立っています。オトニエルの赤いガラス玉を繋いだハートのオブジェが中へと誘います。鈴木康広の《日本列島のベンチ》に腰掛ける人々を横目に展示室に入ると、草間彌生の《ミラールーム かぼちゃ》をはじめ、東芋やリキテンシュタインらの作品が



ブルーデル作《大きな馬》と筆者

続き、期待感が高まります。別館「観海庵」では狩野探幽や円山応挙の作品も鑑賞。足元に秘かに咲く曼珠沙華は須田悦弘の彫刻でした。品川にあった宮島達男や森村泰昌、関根伸夫の作品に再会できたのも感激でした。

屋外作品を遠望できるカフェで温かいコーヒーをいただきながら、きょう出会った作品に思いをはせて、幸福感に浸りました。

（ファミス会員 佐藤典子）



オトニエル作《Kokoro》の前で

fam.s museum shop 便り

オリジナルグッズのニューモデルができましたのでご紹介します。葛西薫さんデザインの当店のシンボル、「玉乗りサイ」がプリントされたコットントートバッグです。色は生成りとライトグレー。「玉乗りサイ」はショッキングピンクで、シンプルですがポップな印象になりました。このサイくんを気軽に持ち歩いて頂きたいという思いから、丈夫さは維持しつつほんの少し生地を薄くして、お求めやすい価格にしました。意外にも合わせやすいですよ。お気軽にお手に取ってみてください。（T.Y.）



1,650円（税込）
横 34.5cm 縦 35.5cm
マチ 10cm 持ち手 56cm
綿 100%